

6387 **サムコ**

石川 詞念夫 (イシカワ ツネオ)

サムコ株式会社副社長執行役員

需要の急拡大を受け今後急成長の見通し

◆上半期業績は減収減益に

2015年7月期第2四半期は、売上高18億29百万円(前年同期比10.0%減)、営業利益26百万円(同77.7%減)、経常利益1億52百万円(同5.2%減)、純利益1億円(同1.9%減)となった。ほぼ損益分岐点の売上高となり、営業利益は大幅に減少し、経常利益は、為替差益により前年同期並みとなっている。当社製品は単価が高く、例えばLED関係のエッチング装置は1億50百万円ほどである。したがって、1台の出荷時期が前後するだけで売上は大きく変動する。第2四半期に予定の大型装置出荷が第3四半期へとずれ込み、上期は減収となった。

装置別の売上高では、洗浄装置がLEDの生産用途向け販売の好調により前年同期に比べ増加した。CVD装置は、国内外ともにオプトエレクトロニクス分野が減少した。エッチング装置も減収となったが、受注ベースでは国内の電子部品分野が回復している。

分野別の売上高では、オプトエレクトロニクス分野が6億81百万円(前年同期比21.7%減)となった。しかし、大型の受注もあり、今後は売上に寄与する見通しである。電子部品・MEMS分野は、前期の通期の売上高が6億75百万円であった。当期はすでに6億15百万円(同2.7%増)となり、下半期も大幅な増加を予想している。売上高に占める構成比は、オプトエレクトロニクス分野が37.3%、電子部品・MEMS分野が33.6%である。

用途別の売上高は、研究開発用が5億50百万円(前年同期比35.1%減)となった。国内の景気が上向いてきたことから、半導体業界では補助金や国のプロジェクトなどが減少している。そのため当面は大幅な伸長は見込めないが、例年一定の売上を維持している。生産用は10億17百万円(同18.0%増)であった。

地域別の売上高の構成比は、国内が71.7%、海外合計が28.3%となっている。

◆過去最高の受注高と受注残高に

四半期毎の受注高は、第1四半期に10億61百万円であったが、第2四半期は18億36百万円で過去最高となった。分野別の内訳は、オプトエレクトロニクス分野が6億26百万円(同年第1四半期比49.1%増)である。国内でLED関連の高機能・高規格品の動向が活発化しており、当面は受注・出荷が継続する見通しである。電子部品・MEMS分野は9億6百万円(同344.7%増)である。これにより構成比が49.4%となり、オプトエレクトロニクス分野の34.1%を上回った。地域別の内訳では、海外合計が3億22百万円(同3.3%増)であった。なかでも北米は1億44百万円(同85.5%増)となっている。国内は15億13百万円(同102.0%増)である。

受注残は20億79百万円で過去最高となっている。第1四半期の決算は、前期末の受注残が10億12百万円であったため赤字となった。しかし、その後受注環境が急速に回復し、潤沢な受注残を持って下半期に入る。したがって、上半期の業績は減収減益となっているが、通期の業績予想は変更しない。

◆新市場と新製品で業績拡大を図る

2017年7月期までを期間とする中期経営計画の方針は、「オンリーワン技術を創造し、市場は世界」、「グロー

バルニッチ市場でのリーディングカンパニーとして最先端の製品・サービスを提供し、市場占有率ナンバーワンを目指す」、「高付加価値経営により事業の社会的役割を果たす」である。化合物半導体分野というニッチ市場において絶対的な価値を提供していくことで大手の参入を防ぎ、利益率重視の経営を継続していく。

前期までの取り組みにおいて、SiC パワーデバイスや MEMS 向け製品の開発・市場投入を完了した。まだ市場が大きくは立ち上がっていないため、投入した製品が全てではないが、着実に将来に向けた布石を打っている。海外展開では、欧州の拠点として昨年 5 月に買収したリヒテンシュタインの samco-ucp 社が稼働を開始した。また、MOCVD についてアメリカの VPE 社と技術提携を開始した。これを基に、日本向けに研究開発を進めている。

本計画の数値目標として、売上高は、今期に 52 億円、2016 年 7 月期に 64 億円、2017 年 7 月期に 78 億円である。この目標に向け、既存市場と新規事業(新市場・新製品)を区分し事業展開を進めている。既存市場では、国内およびアジアを中心としたオプトエレクトロニクス分野、電子部品分野の既存製品売上を確保していく。新規事業では、新市場における売上高の創造を目指す。欧州では、samco-ucp を拠点として市場の開拓を進めていく。アメリカでは、東海岸の拠点をニューヨークに移転・拡充し、受注強化を図っている。また、東南アジア・インドの開拓にも取り組んでいる。さらに、新製品の拡販によって、売上高を創造していく。既存市場の売上高の計画は、今期 42 億円、2016 年 7 月期 46 億円、2017 年 7 月期 50 億円である。新規事業では、今期 10 億円、2016 年 7 月期 18 億円、2017 年 7 月期 28 億円へと拡大させていく。

◆電子部品分野の需要が急拡大

今期の重点課題として、まず重点マーケットである電子部品、MEMS/TSV、LED/LD、パワーデバイスの各分野におけるプレゼンスの確立を目指す。

電子部品分野は、IoT の進展により国内外ともに需要が急激に高まっている。当社の顧客企業も軒並み好業績となり、新製品の開発に注力し増産を進めている。このような環境下、当社には SAW フィルター向けなどの高周波デバイス向け装置が充実しており、さまざまな用途に応用が可能である。GaN 電子デバイスも徐々に増加している。今後は通信インフラの整備に伴い、高速デバイス市場が急速に立ち上がってくるであろう。製造工程においては、プロセスの連続性が重要である。一つの工程を極めるためには、その前後の工程も押さえなくてはならない。これが当社の推進するワンストップソリューションであり、他社とは異なる装置の提案を行っている。

MEMS/TSV 分野では、シリコンディープエッチング装置の新製品を市場投入し、積極的な展開を進めている。MEMS は電子部品の分野とプロセスが一体化してきており、分野自体が融合しつつある。今後ウェアラブルなどで端末の小型化が進めば、融合した分野が増加するであろう。研究開発用の高速 Si ディープエッチング装置は、大学や官公庁などの研究所に納入が進んでいる。

LED/LD 分野では、車載用の LED が急激に増加している。高級車はもとより、軽自動車のヘッドライトにも LED が使用されるようになった。国内のみならず海外でも爆発的に増加している。これに対応する顧客企業の増産により、需要が拡大している。また、LED 製造の後工程でプラズマのクリーナーが必要な工程が生じたことも、需要拡大の一因である。保護膜形成工程では、当社の CVD 装置が国内シェアのほぼ 100%を占めている。

パワーデバイス分野では、SiC および GaN の市場が立ち上がりつつある。市場性が高まるには今しばらく時間がかかるであろうが、確実に成長する市場である。研究を継続し、装置開発を進めていく。この分野でも、ワンストップソリューションとして各工程で使用できる製品のバリエーションをそろえている。

分野別の販売内訳において、これまで主力はオプトエレクトロニクス分野であった。しかし、高周波デバイス市場の成長に次世代パワーデバイス市場が加わり、電子部品分野が急拡大している。今後は他の分野を巻き込みながら、成長をけん引していく見通しである。その結果、2017 年 7 月期の構成比は、オプトエレクトロニクス分野が 31%、電子部品分野が 34%になると予想する。IoT の進展を背景に、電子部品メーカーではモジュール化により事業の拡大を図っており、モジュールに必要なコネクタなどの周辺領域を取り込もうとしている。当社としては、こ

の動きをとらえた対応を進めていく。電子部品の材料はシリコン以外の GaN などのワイドバンドギャップ材料が多いが、それを加工する装置メーカーは多くない。まして、顧客の要求に迅速に対応できるメーカーは少ない。当社は顧客企業の研究開発部門と協力し、顧客の新製品開発に貢献しつつ、必要な装置を開発している。

海外売上高比率は、一時期 40% 台半ばまで拡大したが、2013 年 7 月期には 30% 以下まで低下した。現在は国内需要が旺盛であるが、今後の成長のためには海外での売上拡大がある。そのため、海外拠点の整備、人材の確保を進め、営業力を更に強化していく。2017 年 7 月期の海外売上高比率は 50% 超を目標とする。現在日本のメーカーの海外生産拠点には製品を納入しているが、海外メーカーの生産拠点には納入が進んでいない。今後は欧州の拠点を活用し、アジアにおける欧州企業の生産拠点への納入を図り、欧州・アジア・北米の 3 極体制で、海外売上比率の拡大を目指す。

新規事業の開拓・育成に関しては、当社のコア技術である薄膜技術を新エネルギー・環境エレクトロニクス・医療・バイオ・リサイクルなど、さまざまな分野に展開していく。今後の拡大のため、M&A や他社とのアライアンスにも取り組み、「薄膜技術で世界の産業科学に貢献する」という経営理念のもと、今後も展開を進めていく。

◆ 質 疑 応 答 ◆

為替に関する上半期の実績を伺いたい。

当上半期は 1 億 24 百万円の為替差益を計上した。現在の為替水準が継続すれば、これが当初の利益計画に上乘せされる。アメリカ向けの輸出はドル建てであるが、地域別売上のメインであるアジアへの輸出は円建てで行っているためリスクは低い。

下半期の受注高はどのような計画か。

月 5 億円のペースを予想している。2 月は 5 億円を超え、目標を達成した。3~7 月は 29 億円、通期では約 58 億円が目標である。期初計画は、第 3 四半期に 17 億円であったが、顧客の投資計画の前倒しにより、第 2 四半期に 18 億円超となった。

(平成 27 年 3 月 12 日・東京)